

舵輪

海杯の行方

去る10月4日総帆展帆日、秋晴れとはいきませんでしたが、穏やかな天候のもとで第4回ネブチユニアドが行われました。多数のボランティアの応援と歓声が飛び交う中、白熱した好ゲームとなりました。しかし、過去2回の優勝を誇るフォアマストチームが圧倒的な強さを見せつけ、全種目を制覇し、見事な完全勝利で3度目の優勝を果たしました。この日は、業務課のメンバーが替わってからの初めての総帆展帆にも関わらず、新しいチヨッサーとの息も既にピッタリ合っていると言わんばかりの勢いでした。

勝敗はさておき、皆さんの笑い声と共に、楽しい時間を持つことができ、大変嬉しい限りです。皆さんはいかがでしたか。疲れはありませんでしたか。



海杯の行方

一等航海士 阪本 敏章

平成8年4月に着任以来、皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。大阪府出身の私にとりまして、富山県は縁遠き地でしたが、海王丸を通して展帆ボランティアとともに仕事ができました。これは、一生に残る数々の思い出が、今となっては第二の故郷のように感じています。

着任して最初の総帆展帆の時、「ペテラン」の方が多いなと感じたのが、率直

な印象です。しかし、皆様の力強い掛け声を聞き、現役実習生に優る気迫を感じた時は、海王丸は本当に富山県に来て良かったなと確信しました。

2年半の間、練習船では経験できない色々な仕事をできましたが、やはり一番心に残っているのはドック工事です。海王丸を回航させる前夜、興奮して眠れなかったことが、今でも鮮明に残っています。予算折衝、工事の計画、監督と忙しい日々でしたが、私にとつて大きなステップを超えたような気がします。これも財団職員はじめ展帆ボランティアのお力添えの賜と感謝しています。

私事ですが富山県で長男が誕生し、2歳を過ぎるまで、自然環境に恵まれた土地で一緒に暮らせたことも大きな喜びでした。船乗りにとつて経験できない時間を過ごし、今では少々後ろ髪が引かれる思いです。

これからはまた、陸上から離れ実習生相手の仕事が始まります。年々、最近の若い者は・・・とよく耳にするようになります。雄大さを通して、世間の荒波を乗り越えられるような若者を育てて行きたいと思えます。

貴重な経験を贈ってくれた海王丸、そして財団の大きな柱である展帆事業を支えて下さった展帆ボランティアの方々に「UW」を送ります。

業務課 横濱 浩美

私、9月30日をもちまして海王丸記念財団での2年間の勤務を終え、10月1日から航海訓練所に戻り、練習船北斗丸の操舵手として乗船することになりました。

海王丸記念財団在勤中は公私ともに本当にお世話になりました。新湊での生活はたいへん思い出深く、楽しく過ごすことができました。ボランティアの皆さんとのマスト作業や小学生を相手の海洋教室など練習船乗船中では体験できない有意義な2年間になりました。

皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

2年間本当にありがとうございました。

着任の挨拶

「新しい職場に就いて」
常務理事 馬淵 清隆

このたび、10月1日付けで、帆船海王丸記念財団の常務理事に就任し、皆さんの仲間入りをしました。

海と関係する職場での仕事は初めてですが、皆さんと共に一丸となつて、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

ご承知のとおり、この海王丸パークは、県の日本海ミュージアム構想の一環として整備が進められてきており、海・船・港をテーマに人々が集い、ふれあい、その中で自然や文化、歴史を学び、語り、共に楽しみ、憩うベイ・エリアです。

現在、このパークは、県内の公共施設の中では、最も多い人々に利用され、親しまれている施設となっております。

これも、パークの中核施設である帆船海王丸が、関係職員やボランティアの皆さんの協力によって海に浮かぶ生きた船として、保存、維持され、活用されてきていることが大きな要因であると思えます。

私も、4日に行われた総帆展帆の様子を船上から目の当たりに見て、この生きた海王丸の魅力はボランティアの皆さんによる主体的な展帆活動にも支えられていることを改めて認識し、大変感動しました。

今日、飽食の時代と言われて久しいですが、人の価値観も多様化し、たいへん難しい中で、物の豊かさを求める時代から、心の豊かさを求める時代へと大きく流れが変わってきております。

このような中で、私達が携わる海王丸パークは、楽しむ、遊ぶ場を提供するだけでなく、海洋思想や海洋口マン等を通じて多くの人達に、海の持つ魅力、素晴らしさを伝え、これからの21世紀を担う子供達や若者にも大いなる夢、希望、勇気を与え続けられる施設として充実させていくことは大変意義のあることだと思えます。

これから財団職員の意欲的な取り組みに期待しますとともに、ボランティア

の皆さんの協力を得て、展帆などの主体的な活動の輪が限りなく、大きく広がっていくことを願っております。

どうぞよろしく！

10月1日に、前阪本一等航海士の交代で着任しました。いもおしゅつさくといひます。

赴任前は練習船北斗丸の一等航海士をしておりました。この4月に伏木港に寄港した際、阪本さんと「これまでよく交代してたから、またかもね」などと話していたらその通りになり、二人で笑ったものです。

さて、私と海王丸とのつきあいは、大卒卒業時の長期実習から始まり、航海訓練所に入所後も三等航海士として、また最終航海の時は、次席二等航海士として乗船しました。ただしこのときは遠洋航海前に急遽下船となりましたが・・・

彼女は、私が実習生の時から、質実剛健海王丸として、ときには厳しく、ときには優しく船乗りの卵を育ててくれました。このたび、こうして当財団で彼女のお世話をすることになりましたが、これは母に対する恩返しのような機会を頂いたと思っております。

彼女を現役時代と同じように若さを保たせるには、ボランティアの皆様のご協力がなくてはできません。今後とも当財団及び海王丸の保存事業にご理解とご協力をお願いいたしますとともに私も前任者同様よろしく申し上げます。

業務課 高橋 裕一

10月1日より勤務に就きました高橋です。私は、約10年前青函連絡船より航海訓練所に入所し、初めて乗船したのが海王丸でしたので、大変懐かしく思っています。

富山での生活は初めてなのですが、北海道函館に10年間住んでいたもので、雪と寒さには多分強いと思います。海王丸の仕事、生活共に楽しく過ごせたらと思っていますので、どうぞよろしく申し上げます。

